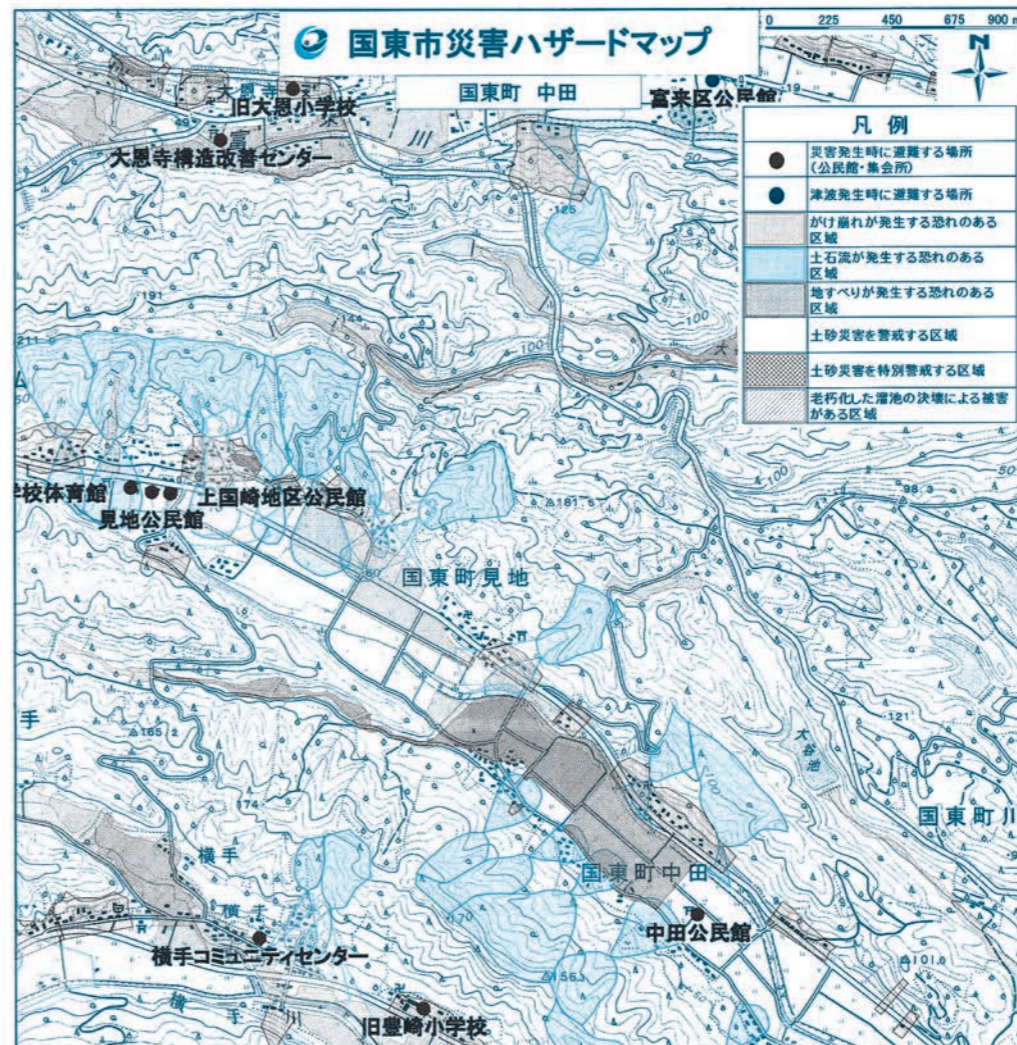


災害を予測し 被害を予防するそれが防災

《緊急周知》ハザードマップを見て、あなたのお住まいの近くの危険箇所を、再度確認してください



▲ご家庭に配布している行政区ごとの災害ハザードマップ

1014の土砂災害危険箇所

広島市で8月20日未明に発生した豪雨災害では、住宅地を襲った大規模な土砂により、74名の死者と多数の家屋が被害を受けました。昨今、これまでに経験したことのない大雨が全国各地で記録されています。

「自分のところでは起きないだろう」…それはあなたの思い違いです。国東市内には土石流や急傾斜、地すべりなどの土砂災害危険箇所が1014か所もあります。ほかにも、津波浸水区域、河川浸水区域、危険ため池などさまざまな注意区域があります。災害はどこにでも起こり得る危険性があります。

災害ハザードマップの確認を

まずは危険箇所がどこなのかを知る事が大切です。「災害ハザードマップ」は、予測できる災害の被害範囲と避難所を地図にしたもので、自然災害時に地域の住民が迅速・的確に避難できるように作られています。

家庭に配布しているハザードマップを見て、あなたの近くの危険箇所と避難所をもう一度確認しましょう。



坂本隆之さんと救助犬チエイサー

▲4mの土砂が襲った現場で捜索活動（坂本さん提供）

坂本隆之さん、ボランティアで広島市土砂災害現場へ 災害救助犬チエイサーと捜索活動

8月23日から24日の2日間、NPO法人九州救助犬協会に所属する救助犬指導手の坂本隆之さん（市臨時職員・国東町）が、広島市安佐南区で土砂災害による行方不明者の捜索活動を行いました。今回の活動は、災害救助犬チエイサーが人体臭に反応し、捜索中の警察や消防に伝えることが主な仕事です。

坂本さんは「現場はどこから手をつけてよいかわからないほど悲惨な状況でした。住宅密集地であり被害情報も混乱していました。土砂災害は国東市でも考えられます。早めの避難と、住民同士の横のつながりの大切さを痛感しました」と当時の様子を話しました。

土砂災害周知避難マップ作成中

特に土砂災害の危険度が高い地域を「土砂災害警戒区域」として、271か所（本年4月1日現在）が指定されています。市では指定地区のみなさんを対象とした「土砂災害周知避難マップ作成説明会」を今年7月から開催しています。住んでいる場所が土砂災害警戒区域であると知っていたら、いざというときの避難所と避難路を決め、地図にして住民へ配布します。なお説明会は毎年40か所程度開催していく予定です。

土砂災害警戒区域のみなさんは、少しでも危険を感じたら早めの自主避難をしましょう。

▲国東市ホームページの災害ハザードマップ



ハザードマップは目につくところに

災害ハザードマップは、平成25年4月に各家庭へ配布しています。お手元がない方は、市役所総務課、各総合支所地域総務課で無料でお渡しします。

なお、国東市ホームページ「防災情報」では、市内全域のマップを見ることができますので、学校、職場、親戚などの危険箇所や避難所の確認に活用してください。

※スマートフォンや携帯電話では表示されませんので、パソコンでご覧ください。

防災避難訓練で自主防災組織の強化

近い将来に発生が予想される南海トラフ地震による津波被害や、



▲安岐町朝来の弁分地区での説明会

豪雨災害を想定した「国東市防災避難訓練」を9月7日(日)に実施し、市内114の行政区で約8000人が参加しました。

訓練では避難所への移動や、支援が必要な方々の避難誘導、避難所での安否確認などを実施しました。繰り返し実施することで、市民一人ひとりの防災意識を高めるとともに、区長や防災士を中心とした自主防災組織の強化を図ります。



▲住民101人が参加した武蔵町向陽台区の避難訓練

普段からの心がけが災害予防

- あなたの家や地域、職場が災害危険区域に入っているかを確認しましょう。
- 災害時には、一番近い避難所が使えない事態もあります。近い避難所を2か所以上確認しましょう。
- 屋外への避難が困難な場合には、家の2階などより高いところに

これが「砂防ダム」

山の土流から流れてくる土石流をくい止め、流れを弱め、下流への被害を防ぐ働きをするコンクリート製の壁です。正式には「砂防堰堤」とよばれ、市内には山の斜面など66か所に設置されています。



▲写真左側が上流（国東町見地川砂防ダム）

【問合せ先】総務課 防災係
0978-7215160